



りっしゅう

立秋（7日）… セミが鳴き、暑さはまだまだ続きます …

暦の上では秋となり、暑中見舞いから残暑見舞いに切り替わる日です。とは言え、実質的には東京では真夏日や猛暑日が続出し、蝉の鳴き声が暑さを増幅させるような季節です。こまめな水分補給と「早寝早起き朝ごはん」を心掛け、暑さに負けない体づくりをお願いします。

<蒙霧升降 ふかききりまとう 8月17日~22日>

立秋の末候は「蒙霧升降」です。森や水辺で朝晩、空気が冷えて霧に覆われる光景を表しているようですが、東京では連日、猛暑日や熱帯夜が続き、災害級の暑さという新しい言葉を耳にするようになりました。「寒蝉鳴」も「蒙霧升降」も、高原などに行かないと体感するのは難しい季節なのかもしれません。

<青山表参道の多様な魅力を知る>

先日は、ホームページを更新した後、幼稚園から徒歩5分程のところにある「岡本太郎記念館」を訪ねました。私の世代にとって岡本太郎と言えば、大阪万博の「太陽の塔」が真っ先に思い浮かびます。その岡本さんが青南小学校の出身だと知って、一度は訪れてみたいとずっと思っていたのです。住まい兼アトリエだった建物と庭が一般に公開されています。

「芸術は爆発だ！」という言葉が有名ですが、展示してある作品からは、ほぼしるエネルギーと同時に人に対する優しさを強く感じました。5年前に閉館した「こどもの城」のシンボルモニュメント「こどもの樹」も岡本太郎の作品です。

特に驚いたのは「花ひらく」という作品があったことです。1958年の作となっていました。青南幼稚園ができたのは、その10年後、園歌「はなひらく」が制定されたのは開園5周年の記念式典の際です。園歌とこの作品との関係は分かりませんが、他にも子どもや母親への慈しみを感じる作品がいくつもあり、改めて身近な存在となりました。

<型にはまらない表現>

幼稚園で訪れるのは難しそうですが、ご家族で訪れてみてはいかがでしょうか。型や枠にはまらない自由な表現を実感し、子どもたちの表現を受け止める私たちにとってはその器を大きくしてもらえないのではないかと思います。青山表参道には、ブティックも多くありますし、みゆき通りなどには個性豊かな建物も数多くあります。ファッションだけでなく、「自由で豊かな表現」を生み出し、受け入れる風土があるのではないかと感じた、充実したひとときでした。

その後、休憩をしながら、外苑前からいちょう並木、神宮球場脇を歩いて散歩をしました。オリンピックが開催されていれば、今頃は…、と思いながら、新しい国立競技場を間近に見ることができました。この建造物からも、たくさんメッセージを受け取ることができます。青南の近くには創造的な見どころがたくさんありますね。有り難い限りです。



幼稚園から南に5分ほどのところに、岡本太郎記念館があります。



小学生の頃、大阪万博で見た「太陽の塔」が出迎えてくれました。私の世代にとっては、懐かしい存在です。



「花ひらく」1958年 リトグラフ



本当ならば東京オリンピックが開催されていたはずの新しい国立競技場です。感慨深い思いで見上げてきました。